（第3種郵便物認可）　建設工業新聞

た。構成比が大きい電力を除くと14・2％増で3年ぶりの増加となる。

北陸の増加率35・0％は全国トップで、電力を除いた数値14・2％についても全国で最大の増加率となっている。電力の大幅な増加に加え、

橋優支店長は「足元の景気は回復傾向にあるが、設備投資が抑制された昨年度の反動もある」との認識を示している。

製造業では、非鉄金属（15・8％減）や紙・パルプ（35・5％減）などが減ったものの、デ

増強といった産業設備も目立った。

非製造業においては、影響が大きい電力を除くと1・5％の微増だが、2年連続の増加だ。業種別に見ると、サービス業や不動産などが減少。供給設備建設が進むガスなどが増加する。

信用金庫支店は3日、フラット35の融資金利（8月）を発表した。北陸3県に本店を置く金融機関のうち、北陸銀行、富山銀行、高岡信用金庫、金沢信用金庫以外の金融機関が返済期間21年以上の金利で0・09％、20年以下の金利では0・08％引き下げた。

最低金利と最高金利との差0・35％は7月と変わっていない。

▽2・23％（20年以下2・02％）―北陸銀、富山銀、福邦銀、福井信金

▽2・38％（同2・1

正々堂々と「公共事業の雇用創出効果」を論ぜよ

対談②

人のためにこそコンクリートを

藤井聡教授

裸の王様

市森　先生が出された本を読ませてもらった。2002年ぐらいから書かれてあって、公共事業費が削減されてきたのも丁度その頃になり、最終的に「コンクリートから人へ」の政策で、さらに、きつくなったんだけど。藤井先生は、かれこれ10年近く前から、このようなことを書かれていたことに対して、ほとんど、われわれも知らなかった。そこに一つの問題があると思う。そういった声がまず、われわれ業界の人間に届き、そして、それから一般の方に届くようにならないと。公共事業や土木は全般的にイメージが良くないから、無理かなぁとも思うが、どうなんでしょう。

藤井　この本の中にも書いてあるが、今の『逆風世論』がなぜあるのか、というと、主要な理論の一つに『沈黙の螺旋（らせん）議論』というものがある。或る意見が世の中で支配的になってくると、その意見の通じることは言いやすいが、その意見の反対は言いにくくなる。そうなれば、その意見に反対の人は沈黙していく。そして、沈黙していると、ますます世論の意見は大きくなり、雪だるま式に増えていく。一方で、それに反対する人は、逆雪だるま式にますます小さくなる。それが『沈黙が沈黙を生む螺旋議論』というもの。これは「裸の王様」の童話と全く同じで、みんな、王様は裸であることは知っている。だけども、王様は素敵な服を着ている、という声がだんだん大きくなってくると、みんなおかしい、とは思っているが、黙ってしまう、これが世論の真相であり、沈黙の螺旋議論のコアにある考え方である。これを破ったのは何か。先ほどの童話でいうと「王様は裸だ」と、声高々に言った一人の人間がいたから、結局は裸だったんだ、ということになった。

市森　たしか、子どもだったね。

藤井　そう。だから、中立的な人間、損得関係のない無関係な人間がツッコミを入れたことになる。ここで、重要なポイントは二つあって、一つは世論というのは、不条理なことがあっても、雪だるま式に大きくなっていくものであること。もう一つは、その世論を崩壊させるのは、中立な立場の人間がツッコミを入れることにある。一旦ツッコミを入れれば、後は雪崩が打ったように、ザッと広まっていくはず。「やっぱ、裸や。恥ずかしい」というように。この理論通りにいけば、この本を建設業界関係者が読んでも、一般の人はなかなか読んでくれないだろうし、今はマスメディアには、何万、何億という情報が氾濫している中で、たかだか、本一冊の影響というのは、その裸の王様の時の子どもよりも、ずっと小さく、雪崩現象は起こらないかもしれないが、しかし、その声を大きく、できるだけ挙げていこうという努力の果てに、雪崩が起きるんじゃないか、と思う。だから、発言にみんなが関わり、みんながその子どもの役になっていければ、可能性が広がっていくはずだ。

いじめっ子といじめられっ子

市森　結局のところ、公共事業が批判される要因の一つは、マスコミの物事を表面的に捉えた報道であると思う。マスコミの公共事業、土木に対する報道は、われわれ専門家からみれば、事実と異なることが多く、場合によって明らかに誇張表現されている、さらには良い部分がまったく報道されていない。マスコミがそういう報道をし続ける以上、一般の人に真実は伝わらない、どうしてなんだろうね。なぜ、マスコミは表面的な悪いことだけ伝えるようになってしまったのだろう。社会資本整備をどんどん進めてきた昔の日本には、そんな風潮はなかったと思うし。

藤井　昔の日本人と今の日本人が変わった点はあまりないと思うが、一つだけ変わったことがある。われわれ、土木系の人間は『沈黙は美徳だ』と思っているところがあって、われわれ世代から上は「おしゃべりは、みっともない」という教育を受けている人が多く、建設業界にもたくさんいる。しかし今や、あまりにも無知なニュースキャスターが好き勝手に思ったことを言う番組が増えている。そうなると、社会資本整備というものが、必要か否かは分からないけれども、容易に「いらないのでは？」と言い出した。それは、「ぼくらの税金を何億円、何兆円も使いやがって」というような単純な発想に基づく軽いツッコミだったろう。実際、普通の人々は、それぞれの社会資本整備がなぜ必要なのか、よく知らないわけだ。だから、国とか行政に対して、気軽にツッコミを入れる。一方、行政は、まじめだから当初は黙っていた。すると「答えろよ」と言われるので、丁寧に説明すると、今度は、専門用語だらけの説明だったので、「訳がわからん」と言うことになった。それが非難されるや、行政はまた黙らざるを得なくなる。そうして黙っているとやっぱり、「何か、利権をむさぼっているのではないか？だから、黙っているのではないか？」となってしまった。つまり、まるで、いじめられっ子が黙ってて、いじめっ子がどんどんみんなで寄ってたかって、いじめるようになっていたのが真相ではないか。先ほど話した通り、現状の公共事業バッシングには原因は二つあって、われわれが黙っていたこと。もう一つは普通の人がなんの畏れや敬いもなく、国家、公共に対して、気軽にツッコミを入れるようになったことにある。昔は一般の人々は、まさか国家、公共、行政がやっていることに対して、声高々には批判しない、大人の見識があった。そういう感覚があって、世の中うまく回っていたのだろう。現在は、そこでアンバランスが起きた。社会資本整備に知識の無い一般的な人の方が声高に吠え、それをよく知る専門家は黙っている。いじめっ子といじめられっ子が、グシャグシャになっているのが、今の状況ではなかろうか。

日本の惨状

市森　今、民主党の政権になって、コンクリートから人へのスローガンの下、最終的には今年度、昨年度費で18・3％の公共事業費の削減が行われた。まだ1／四半期しか経過していないので、今年度が終わってみないと、最終的に建設業界にどれほどのインパクトを与えるか分からない。このような状況に陥ったのは公共事業費削減ということを国民が簡単に受け入れる風潮があるからだと思うが、なんとかならなかったものか。例えば、首都高速で山手トンネルが開通したが、当初は逆に渋滞していることがあった。そんな状況から或るコラムの記事で、渋滞に遭遇した利用者が「こんな、無駄なトンネルのために、何千億の税金が投入されているのは信じられない」というコメントが出ていた。実際山手トンネルの総事業費は1・4兆円であるが、一般の人の感覚というのは、何千億と聞いた瞬間に、「途方もない金額や」と脳が無意識に判断してしまう。トンネルが1㎞あたりどれだけの工事費がかかっているか、全く基礎知識がないままに、「何千億もあるなら、私の税金を少しでも返して」とそんな感覚になってしまう。ぼくは、そのコラムを読んで、その一般人の発想に対し何と悲惨なことだろうと思った。そういう世の中の論調になっているから、「コンクリートから人へ」が、簡単に受け入れられたわけだと思うが、この辺はどうか。

つづく

◎藤井　聡　京大工土木工学科卒
京都大学大学院教授
◎市森友明　京大工土木工学科卒
新日本コンサルタント社長

お金をムダ使いし

シアター21で始まった

このうち地元の学生劇団「星空工房」が上演したコント＝写真＝では、主人公の女の子がお父さんの誕生日プレゼントを買いに出かけるが、途中でたい焼きを食べたり、ジュースを飲んだり、前から欲しかった熊のぬいぐるみなどを買ううちにお金を使い果たしてしまう。プレゼントを買えなくなった女の子は泣きながら、お母さんに「もう二度とムダ使いしません。お小遣い帳をつけます」と約束する。劇を見た子供たちにもお小遣い帳を配り、お金を大切に使うことを呼びかけた。同イベントは4日まで。

北援工業が破産申請

【富山】帝国データバンク富山支店によると、機械据付工事の北援工業（富山市呉羽町434、代表）は3日、富山地裁へ自己破産を申請した。負債は全額で約1億900万円を見込む。

4期を業年　0融産で澤（富事プン

年創業、95年組。鉄骨工事、機械器具設置業者を主先とし、最盛期には売上高約1億円を上。しかし、

求人数が

石川労働局と石川県は、来春大学等卒業予定者と35歳未満の若年者を対象とした「合同就職面接会」を3日、金沢市鞍月の石川県地場産業振

平成22年8月4日付　建設工業新聞掲載

石川労働局ら主催　合同就職面接会